

討 議

(21) フェアの表示による最終沈殿池の機能評価

国立公害研究所総合解析部 内 藤 正 明

沈殿池については、近年、必ずしも研究が活発でないと思われる中で、これだけ集中的に実測データを取り、定量的に解析した成果は評価されるべきであろう。

トレーサー実験から短絡流、死水域および t_g , σ^2 を決めているが、トレーサー応答曲線をどう読みとるかによってその結果が相当違ってくるのが普通である。前刷にもトレーサー応答データとその処理の一例が見られると、結果の妥当性について判断がつくと思われるが……………。

密度流の発生が沈殿池特性を大きく支配することは指摘されている通りであり、これにはさらに今後の研究にまつべきであろう。しかし、少くとも本実験の一連のデータ採取過程において、この大きな支配因子である密度流がほぼ同一状況に保たれていたという保証はあるのだろうか？

Fairの効率式を改良した(1)式提案は興味深いが、補正係数 K_2 の幅が図-7のように余りに広いのでは(1)式自体の意義をどう考えればよいのであろう。特に K_2 がMLSS濃度によって大きく変るというのは、(1)式の係数(多分 V_i)にうまくMLSSの影響がとり込まれていないことを意味するので、(6)式も含めて再考の余地があるのではなかろうか。